

資料提供		
平成 23 年 3 月 18 日		
担当課 (担当者)	(財)鳥取県教育文化財団美和調査事務所 (濱田竜彦・下江健太)	文化財課 (高尾浩司)
電 話	0857-51-7553 / 090-8243-4213	0857-26-7525

もとだかゆみのき

本高弓ノ木遺跡で出土した国内最古の「土のう」

(財)鳥取県教育文化財団では、国土交通省の一般国道9号(鳥取西道路)改築事業に伴う発掘調査を実施しています。このうち、「本高弓ノ木遺跡」において平成22年度の発掘調査で、現存するものでは国内最古の「土のう」が出土し、貴重な資料の劣化を防止するため、発見後すぐに取り上げ、応急的な保存処理を施していました。

このたび保存処理が終わりましたので、記者公開を行うとともに鳥取県立博物館で一般公開を行います。

1 記者公開について

- (1) 日 時 平成23年3月25日(金) 午後2時から
- (2) 場 所 (財)鳥取県教育文化財団 調査室 美和調査事務所
(鳥取市源太12番地、旧 鳥取湖陵高校美和分校内)

2 本高弓ノ木遺跡で出土した「土のう」について

本高弓ノ木遺跡(鳥取市本高)では、古墳時代前期(4世紀)に造られた長大な水路を伴う池状の落ち込みを調査しました。「土のう」は、池状の落ち込みの水利施設とみられる木製構造物の調査の過程で確認したものです。地層の断面にあらわれた痕跡としては3世紀後半にさかのぼる事例もありますが、遺物として現存する国内最古の「土のう」となる貴重な発見です。

※昨年11月の発掘調査現地説明会の際は「土のう」を保存処理していたため、出土状況の写真及び解説を説明会資料に掲載していましたが、実物をご覧いただくのは今回が初めてとなります。

(1)「土のう」の時期と特徴(写真①～③参照)

時 期 古墳時代前期(4世紀)

特 徴 イネ科植物などを材料とした編物のようなもので土をくるみ、ほどけないよう紐で縛り付けたもの

大きさ 長さ75cm(残存する長さ)、幅35～40cm、厚さ6～8cm

(2)「土のう」が出土した古墳時代前期(4世紀)の池状の落ち込み(図参照)

- ・池状の落ち込みは周辺の河川から水を引き入れるための施設
- ・内部に多量の木材を使用した複雑な構造物(＝木製構造物)を伴う
- ・引き入れた水の量や流れを調整し、北側に延びる水路に水を流していたと考えられる
- ・部分的な発掘にとどまるため、池状の落ち込みの規模は不明
- ・池状の落ち込みから延びる水路の規模は、幅約5m、長さ南北約210m(さらに北に延びる)

【木製構造物】

- ・池状の落ち込み内に設けられた水利施設
- ・粘土や砂を盛り上げ、長い横木と複数の杭を組み合わせている
- ・木製構造物の構築過程で「土のう」を積み上げている

(3)調査と発見の意義

本高弓ノ木遺跡周辺で古墳時代前期(4世紀)に大規模な水利事業が行われていたことが明らかになりました。近接する丘陵には同じ頃に築造された山陰地方最古の前方後円墳(本高14号墳、全長63m)があり、地元権力者が地域開発を進めていた可能性がうかがわれます。①大規模な水路を伴う池状の落ち込み、②水利施設と考えられる複雑な木製構造物、そして③現存する国内最古の「土のう」の発見は、当時の水利事業を支えた土木技術水準の高さを示すものとして貴重です。

3 一般公開

本高弓ノ木遺跡の出土品等について、以下のとおり発掘調査速報展を開催します。

- (1) 展示期間 平成23年3月29日(火)～5月29日(日)＊4月4日(月)・25日(月)は休館
- (2) 会 場 鳥取県立博物館 歴史・民俗展示室「歴史の窓」コーナー
- (3) 展示資料 国内最古の「土のう」、県東部最古の弥生土器、出土状況写真パネル等



本高弓ノ木遺跡の位置（鳥取市本高地内）



調査区模式図

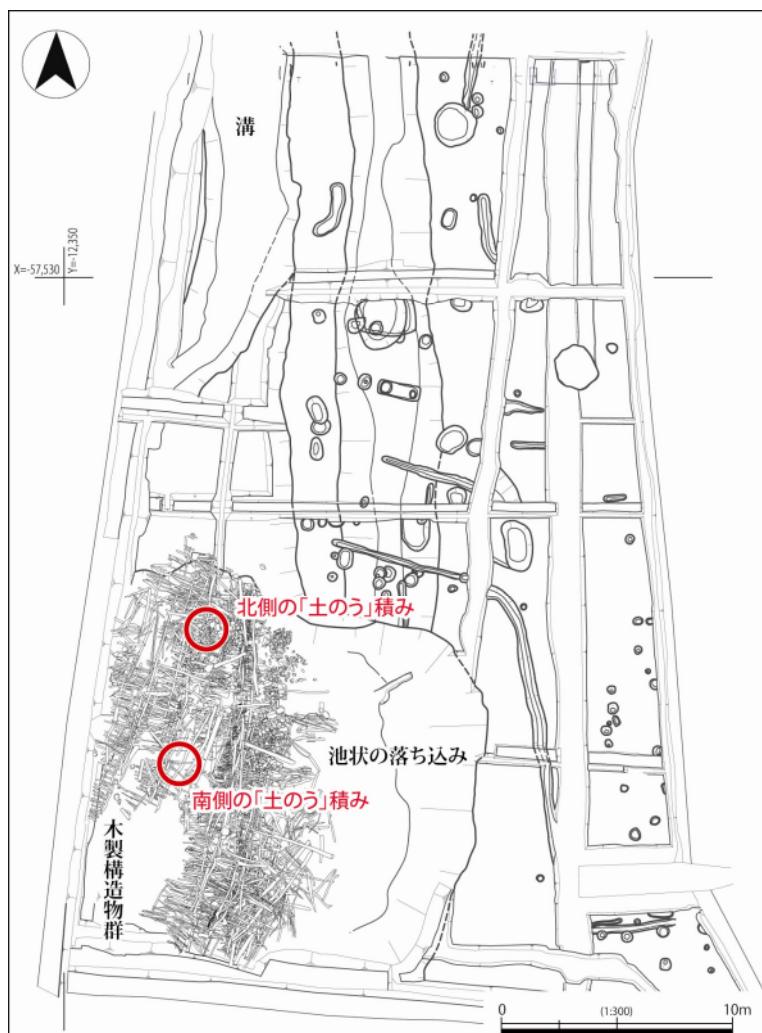
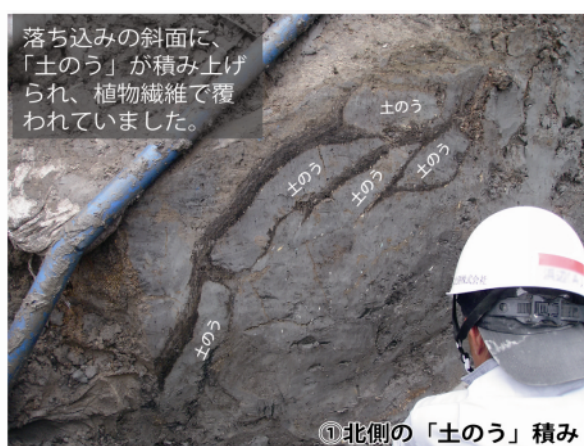


図 「土のう」の出土した位置と状況



①北側の「土のう」積み



②南側の「土のう」積み
（最下部の「土のう」）



③紐の結び目